

トチノキ開花観察会 ～モチモチの木に出会ってみませんか～



認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日 : 2017年6月3日(土)
 後援 : 大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会
 協賛 : 平和堂財団
 参加者 : 12組 31名・スタッフ1名・ガイド4名・びわ湖放送1名

年2回の実施が定着してきたトチノキ観察会。トラストでチャーターしたバスは朝の8時にJR大津駅を出て、おごと温泉駅で集合の参加者も乗せ、朽木へ向かった。

この行事は他よりもリピーターが多い。以前秋に作ったバターナイフを愛用しているとおっしゃって下さった参加者も来ておられた。

今回見学するのは保谷のトチノキ。トラストでは初めてのコースだ。林道入り口で車から降り、軽トラなら入れるほどの幅の広い道が続く。登山ではなく、山歩きといったコースで、歩きやすい。しかし、週の半ばに降った雨の影響でぬかるみが多い為、参加者は長靴に履き替えてから出発した。

青木先生は途中で発見したもののそばでそれぞれの説明を始める。その話は子供にも興味深く、その話を聞くために先生のそばを離れないように歩く子が多かった。

先生の話は植物や虫、そして動物など多彩だ。この時期はまだ女王バチが自分だけで子供を育てて増やしているため、今の時期はそんなに気にするほど巣が小さくないとか、この木だけなぜ他の木よりも太いの伐採されずに残っているのかなど、大人も知らない話が盛り沢山だった。

先生の話と同じくらい、下手をするとそれ以上に子供の中で人気なのが右の写真にあるように、アカハライモリを動けなくすることだ。青木先生の手にかかると、まるで魔法にかかったかのように仰向けのまましばらくじっと眠ったように動かなくなる。以前はトンボも同じようにじっとしていた。毎回必ずと言っていいほど、昆虫や両生類などに触れるのが苦手な子がいるのだが、今回は皆大丈夫な様子で、積極的に自分で水たまりからイモリを捕まえ、この催眠術をやってもらおうと先生にお願いしている子もいた。

さらに途中でみつけた『イタドリ』を使って笛を作ってくれた。子供達は皆先生のように上手に吹くことにしばら



く夢中になって吹きながら先生について歩く。笛を短くすると音が高くなるので、先生に「もっと短く切ってください。」とお願いしている子もいた。

他にも花の蜜の吸い方も教わった。子供の頃、そう言えばそんなことをしたな・・・という大人が忘れていたことも話してくださり、ちょっと近所の自然に触れていた子供の頃の懐かしい感覚がよみがえった。

そうこうしている内に、目的のトチノキに到着。その迫力はかなりのもので、遠く離れて撮っても上や横がフレームアウトしてしまう大きさだ。



幹は太く、周りを子供10人以上が手をつなぐほどのスペース。測量用のポールで高さを測るが、見える太い幹の高さにすら及んでいない。以前の計測でこの木の高さは約27、28メートルほどだったそうだ。幹の太さも調べた。そのサイズは、5m57cm。子供の予想よりも少々細かったようだ。

残念ながら、この木はの花は終わったようだったが、先生が他の木の花を採取し、事前に用意されていた。ので身近に見ることが出来た。

この多くの花のどれくらいの数が実になるのか、なぜ全部の花が実にならないのか、実の沢山出来る年とそうでない年がある、など沢山の話聞いた。



